

1 自己評価及び外部評価結果 (※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070103142		
法人名	有限会社ネオファミリー		
事業所名	ネオファミリー・和歌山	【ユニット名:さくら】	
所在地	和歌山市田中町2丁目19番地		
自己評価作成日	平成24年11月13日	評価結果市町村受理日	平成25年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JiyosyoCd=3070103142-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成24年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は和歌山市の中心市街地に位置し、一般住民も入居する7階建の2階・3階を改築しグループホーム(2ユニット)を運営しています。あえて市街地で運営するということには意味があり、元々人家や商店街が多く建ち並んでいる環境で生活されていた方々もいるなかで、その様な方々にしてみれば最も安心出来、安らぎを感じられる土地柄ではなからうか、という意味合いからで有ります。その様な環境の中でネオファミリー(新しい家族)として職員一人一人が入居者様と生活を共にしている事を意識し、落ち着いた雰囲気の中でコミュニケーションをとりながら我が家のように感じて頂ける介護を実践している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地のマンションの2、3階に位置し、街中の暮らしに馴染んでいた人にとって今までの生活を継続しやすい環境である。「やすらぎ・喜び・安心」と「地域と歩み、地域と共に」を理念に掲げ、全職員が共通意識を持ち日々の生活に視点を置いた支援に努めており、入居者は、ゆったりと落ち着いた雰囲気の中で日々の生活を送っている。ターミナルまで支援して行く考えを職員全体で共有し、入居した時点から家族の意向を聞き、主治医・訪問看護・職員・家族が連携し終末期まで穏やかに過ごせるよう話し合いがなされている。入居者の尊厳を考えプライバシーには特に配慮した介護を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で理念(地域と歩み、地域と共に・やすらぎ・よるこび・安心)の重要性を全職員が周知し、それを目の触れやすい場所に掲示し、ミーティング等で共有し実践している。	入居者の立場での視点を持ち、どうしたら理念の「やすらぎ、安心」が得られるかを常に考え、ケアを実践している。「地域と歩み・地域と共に」何ができ、活動できるかを職員全員で考え実行出来るように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の清掃活動を毎週土曜日、入居者と共に実施している。近隣の方々とも顔見知りとなりつつ有り、挨拶や労いの声掛けをして頂く機会も増えている。	自治会には入っていないが、マンションのエレベーター内やゴミ置き場を入居者と共に清掃している。近隣にパンフレットを配り相談を受けるなど、マンションの住民を含め交流を深めようと模索している。	近隣や町内の情報を得る為にも自治会に入ることも1つの手段と考え、地域の中の一員として季節の行事などお互い日常的に交流して行く事を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長、近隣住民への定期的訪問実施にて当施設の介護実践状況説明等を行う事により、近隣からの介護相談依頼も増加傾向に有り、地域の方へ認知症の理解を深める機会となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催しており、会議メンバーの方を交えて、情報交換が出来る様、配慮している。	地域住民や入居者の出席はなく事業所のメンバーが中心になっている。会議で出された意見はケアに反映できるようにしている。	地域住民が興味を持って関わられるような方策を検討し、また入居者も加わることができるよう工夫するなど、今後さらなる努力を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課や地域包括支援センター職員と運営推進会議や入所事案に於いて実情を把握し、ご意見を頂く等 協力関係を築いている。	市の介護保険課や地域包括支援センターには、常に出向き、コミュニケーションを図るようにしている。成年後見人制度を利用している人もいる為相談や意見を貰ったりと良好な関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待防止法等、全職員が身体拘束ゼロを周知し、個々の尊厳を重要視している。又、内部研修にも努めており、特に入居者の状況を常に観察し、徘徊の有る方には所在確認、見守りを重視している。	研修に力を入れ、直接的な拘束だけでなく、見えない拘束にも気をつけて、一人ひとりに丁寧に対応して、拘束しないケアに取り組んでいる。常に意識できるようマニュアルは誰もが見える場所に置いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修等高齢者虐待防止についての理解周知、事業所内に於ける身体拘束ゼロ宣言等掲示し、日々の生活の中、スタッフ間で声掛け、ケアの方法について話し合い、虐待防止に努めている。		

【事業所名】ネオファミリー・和歌山 ユニット名: さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用されている方が数名おられる為、制度の在り方・重要性をミーティング等で学び、他の職員と情報共有するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項を説明し、了承を得たうえで契約している。又、制度改正が有る場合等は、再度説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し施設運営向上に反映させ、又、日頃から家族には入居者の状況報告等を頻繁に行い、意見や要望を伺う様、努めている。	電話連絡や家族の来訪時に意見や要望を聞き、迅速に対応するようにしている。毎月ネオファミリー通信を送付し日々の様子を家族に知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員の面談実施 及び 職員間での意見、提案等、連絡ノートを活用し、情報共有している。	職員会議は月1回行っており、意見を出しやすい雰囲気である。職員からの意見や提案がケアに反映されている。自己・外部評価の内容も職員間で話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と代表者はコミュニケーションを図り、何でも話せる関係で有り、職員の健康管理も含め、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の自主的な研修参加に配慮し、研修後は報告書を回覧し、スタッフ間で共有出来る様、努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の中で、運営に関する意見交換等行っている。又、広範囲では無いがネットワークは構築されている。		

【事業所名】ネオファミリー・和歌山 ユニット名: さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問調査により情報収集を行い、本人の要望に対応出来る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人と一緒に施設見学をして頂き、事前に不安や要望を聞き、より良いサービスに繋がる様、取り組んでいる。家族とのコミュニケーションを大切に、意見、要望等、話しやすい雰囲気作りに取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向をしっかり把握し、安心してサービスを受ける事が出来る様、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	『共に暮らす』という意識を持ち、教え合ったり、励まし合ったりしながら生活を共にし、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の気持ち 及び 意向を聞きながら、本人と良好な関係が築ける様にしている。又、ケースによっては、家族に出来る事は協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人、友人の面会時には、ゆっくりと過ごして頂ける様、雰囲気作りにも配慮している。又、定期的な面会 及び 家族等との外出依頼にて、関係が途切れない様、心掛けている。	墓参りや、行きつけの美容院に家族と一緒に行くこともある。知人に年賀状を出したり、いただいたり、これまでの関係が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の出来る事、出来ない事を把握し、その方が力を発揮出来る様、声掛けを行ったり、一緒に行事に参加して頂いている。		

【事業所名】ネオファミリー・和歌山 ユニット名: さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も適宜、必要に応じて協力する旨を伝えており、家族に会った折等には様子を伺ったりし、関係の継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報 及び 本人の行動、言動、表情から、思いや要望を把握する様、努めている。	家族、職員が一緒に考え、本人の思いを知ることができるよう「家族と共に考える利用者の介護」というアセスメントの様式をつくり、写真も使用しながら、本人像を把握し個別の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集や日々の暮らしの中での様子、サービス状況等にて入居者個々の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが個々のペースで生活出来る様に支援している。その中で現状の把握に努める様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議や申し送り等で出た意見を検討し、現状に合ったケアが出来る様にしている。	ケア計画は見直しや変更も必要に応じて行っている。スタッフ会議や申し送りの際に職員間で話し合った内容を踏まえて介護計画を作成しているが、抽象的な内容が多い。	職員が見てすぐ分かるように明確な目標を設定し具体的にする事で、共通の意識を持って、日々の介護実践につなげていくことを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテへの詳細な記入にて情報を共有し、常に話し合い、実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況を考慮し、その時に合ったケア 及び 他のサービスも視野に入れ、多機能化に取り組んでいる。		

【事業所名】ネオファミリー・和歌山 ユニット名: さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源(警察、消防、自治会長、民生委員)との関わりにより、安心・安全な生活を送られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの家族が当施設の協力医療機関の往診を希望されており、必要に応じて主治医の紹介と家族の協力を得て、専門的な診察(検査)を受けられる様、支援している。	各ユニットごとに協力医がいるため、緊急時にどちらかの医師が往診してくれるという安心感から、入居後は、協力医をかかりつけ医に希望される場合がほとんどである。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に情報交換を行い、状態変化等の場合、相談し、受診の必要性の判断や助言を得ており、常に連絡が取れる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に於ける情報提供を行い、医療機関と情報を共有している。入院中、管理者、スタッフが訪問し退院を含め、今後の方向性について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナル期に於ける支援について事前に納得いくまで本人・家族と話し合い、協力医療機関・家族・介護の連携により支援している。	入居時から話し合い、家族・主治医・訪問看護等と連絡を取りターミナルケアを行っている。終末期の出来る事・出来ない事の説明をすると共に緊急時の対応について家族の意向も聞いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルも含め、会議等で緊急時にも速やかに対応出来る様に備えている。又、ハイムリック法等実践訓練も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	中消防署との協力体制 及び 全職員による定期的災害訓練にて非難方法等災害時必要不可欠な訓練を実施している。又、東日本大震災に学ぶ勉強会も実施し、地震に備えた対応について周知している。	防災訓練は年2回の実施だがマンションの住民や入居者は参加していない。消防署と話し合い火災時は3階ベランダ、地震時は7階に避難し、5分で救助隊が来る体制となっている。	災害時に避難する意識付けが望まれ、入居者も避難訓練に参加するとともに、訓練時近隣住民も加わるよう呼びかけ、災害時の協力体制を築くことを期待したい。

【事業所名】ネオファミリー・和歌山 ユニット名: さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	まず、本人の気持ちを尊重し、さりげない声掛け、言葉掛けを心掛けている。又、プライバシーの確保に注意し、記録など個人情報の取り扱い徹底に努めている。	個々のこれまでの生活を知り、プライドを傷つけないよう気配りし話を聞いている。人前でトイレに誘う時には、声掛けに配慮し、ポータブルトイレの洗浄も見えない所で行うなどプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活での会話等で思いや希望を探ったり、一人ひとりが自己決定出来る場面を提供する様、心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のプログラムを決めるのではなく、個々のペースに合わせて、その日の体調や気持ちに配慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理美容(訪問含む)を利用して頂き、本人にも希望を聞いている。又、家族に協力頂き、季節に合わせた服装が出来る様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れたり、誕生日には、ケーキ、赤飯等を提供している。又、準備出来る方には手伝って頂いたり、味見をして頂いたりしている。	調理は職員だけで行っているが、職員も同じものを一緒に食べ、下膳は一緒に行っている。食事時間も個別に対応し、ゆったりと和やかな雰囲気の中で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の希望 及び 状態により、食事形態を変え、一日の熱量1,600Cal、水分量1,200ccを基準として支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの重要性を理解し、毎食後の口腔ケアを個々の能力に合わせて、声掛け・見守り・介助を行っている。義歯の定期的な洗浄等配慮している。		

【事業所名】ネオファミリー・和歌山 ユニット名: さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、又、介助を伴う入居者については、排泄チェック表を活用し、失禁予防 及び 自立に向けた支援を行っている。	オムツを使用している人にも本人のサインを探しながらトイレ誘導を行い、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、繊維質摂取等を心掛け、生活サイクルの維持 及び 離床促し等、自然排便を促す取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	概ね時間は決まっているが、本人の体調や希望により、変更したり、入浴拒否の場合は無理強いせず、時間をずらして声掛け等行っている。	週3日の入浴日以外でも希望に応じてシャワー等の対応をしている。同性介護を基本とし、入浴を嫌がる人には原因を探り、1つ1つの動作をゆっくり行うよう配慮して、安心して入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活状況を把握し、体調や希望に応じ、自由に休息をとって頂いている。日中は適度な活動を促し、生活リズムを作る事で安眠出来る様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は体調変化、気温変化等に応じ、主治医と相談のうえ、適宜、処方して頂き、服薬確認 及び 薬情把握についても徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴や得意分野を把握し、個々に準じた役割が持てる場を作り出せる様、努めている。外出、行事等に参加する事で気分転換となる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に応じて天候が良い季節には近隣の公園に散歩に出かけたり、食材の買い出しへの同行等促し、日頃閉じこもりがちの人にも外出の機会が持てる様、支援し、近隣住民との交流を図っている。	日常的にコンビニに行ったり、公園や近くの学校周辺を散歩している。外出できない人にはベランダに出ることができるよう配慮している。外食や花見も実施している。外食はアンケートによって希望にかなうよう支援している。	

【事業所名】ネオファミリー・和歌山 ユニット名: さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症状進行により、自己にての金銭管理が困難な為、実践出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望にて、家族、知人への電話連絡等は出来る様、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の構造上及び立地条件等により、自然観を感じて頂けない点も有るが、日々、居室の換気及び室温・湿度管理等実施し、又、リビングには四季折々の装飾品、共同制作による絵画にて、出来るだけ不快感の減少を心掛け、季節感や生活感を感じて頂ける様、工夫している。	明るく採光も良く湿度にも気をつけている。ペランダには季節を感じられる花が植えられ、目で楽しめるよう工夫している。ゆったり過ごせる空間が作られ、食後ソファに座り話はずんだり和やかな雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂では、気の合ったもの同士が思い思いに過ごせる様、席の配置を工夫したり、している。又、テレビの前を広くし、皆が集まり易い空間づくりを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの有る物を持ってきて頂き、出来るだけ、自宅に近い雰囲気となる様、家族に協力して頂いている。本人の状況により、ベッド・タンスの位置にも配慮している。	自分の作った作品を飾ったり、故人に果物やお菓子をお供えしてお勤めをしている人もいるなど、個々に合せた居室となっている。居室のドアは間違わないよう特徴のある表示で工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室表札設置にて混乱防止を図り、又、トイレや浴室等には判り易い表示を行っている。又、居室及び共同空間には、不要なものを置かない様にし、危険防止に努めている。		